

小学校

2017年度 合格体験記 【教員：滋賀・小学校】

M.M.さん：学校教育 国際理解教育専攻

1) はじめに

私は正直、大学入学当初はあまり「教員になりたい」という気持ちは強くなく、どちらかというと民間企業への就職を希望していました。しかし、大学3年生で教育実習に行き、改めて人の成長に関わる「教師」という職業の楽しさに気づき、小学校教師を強く志望するようになりました。

2) 地域・校種・職種などの選択について

私は自分自身が滋賀県で生まれ育ったことから、滋賀県で教師になりたいと思い、他府県との併願はしませんでした。受験のチャンスを増やすという意味では、他府県との併願を考えてみるのも良いと思いますが、都道府県によって試験の内容が大きく変わることがあるので、早めに受験自治体の試験内容等を調べておくことをおすすめします。

また、私は小学校免許と同時に中学校の英語免許も取得していましたが、小学校での教育実習がとても楽しかったことと、これから小学校で重視されてくる外国語教育に貢献していきたいと思い、小学校教員を志望しました。

3) 試験までのこと

私は進路についてずっと迷いがあったため、試験勉強を始めたのは教育実習が終わった3回生の12月頃からです。しかし、この時期はまだサークルの活動も継続して行っており、勉強といってもすきま時間に参考書を読み進める程度のことしかできていませんでした。3回生のうちは、教員採用試験がまだ先のことに感じられ、なかなかモチベーションもあがりませんでした。それでも2月に大学で行われていた「教職セミナー」に積極的に参加し、その復習だけはしっかり行うなど自分の中で小さな目標を決めることで、勉強に対する集中力を高めていました。

4回生の5月には大学推薦者の選考がありました。滋賀県教採の大学推薦をもらえると、一次試験の一部（一般教養、教職教養、小学校全科）が免除になります。私は受けられるチャンスは全て受けたいと思い、大学推薦者選考を受けることにしました。選考までの間は、「教採本番の筆記試験の勉強」と、「学内推薦の面接の練習」を同時並行で行わなければいけないので正直とてもしんどかったです。しかし、「いま面接に向けて頑張っていることは試験本番も決して無駄にならない」と思い、毎日一生懸命練習しました。結果、私は運よく推薦をいただくことができました。大学推薦をいただいてからは、「小論文」と「集団面接」の対策に集中的に取り組みました。

4) 1次試験について

滋賀県の一次試験は、以下の要領で行われました。ここでは私が集中的に取り組んだ小論文と集団面接の対策について書きたいと思います。

2017年 一次試験(滋賀県小学校の場合)

7月8日：筆記試験（一般教養・教職教養・小学校全科・小論文）

7月15,16日：面接試験（集団面接・集団討論・意見発表）

〈小論文〉

小論文に関しては、自分の書いたものを他の人に見てもらうのが一番の上達方法だと思います。そのため私は、何度も書いては教育実践論ご担当の先生に添削してもらっていました。また自身で「小論文ノート」を作り、添削の際に注意されたことやアドバイスを書き留めておき、次に書くときにはそれを参考に書くようにしていました。

小論文はすぐに上達するものではありませんが、地道に努力すれば必ず上手く書けるようになります。なかなか伸びずに苦しんでいる人も、最後まであきらめずに頑張ってください。

〈集団面接・集団討論〉

集団面接では、最初に「1分間スピーチ」を行います。1分間スピーチとは、どのような教員になりたいかなどについて自己アピールも含めて1分程度で発表するというものです。1分間スピーチは、テーマごとに「自分ならこれだ!」というものを一つ考え、何度も何度も声に出して練習することで、当日自信を持って言えるようになります。

集団討論は、一つのテーマについて班で15分間話し合うというものです。これはなかなか一人で練習できるものではないので、実践論の授業や空き時間に友達と集まって練習しました。集団討論は、ただ積極的に発言すれば良いという訳ではなく、人の話をよく聞いているかなど、協調性に関しても見られます。最初はなかなか慣れずに難しく感じますが、練習していくうちにだんだんコツをつかめるようになります。

最後に、意見発表は与えられた質問について、自分の考えを1分間程度で述べるというものです。質問は「教育に関するもの」が多いです。質問をしっかりと聞き、理解したうえで、自分の考えを試験官の目を見て堂々と話すことが何よりも大切です。

小論文も集団討論も、自身が語る根拠となる「教育に関する知識」をたくさん身につけておくことで、自分の考えや言葉に説得力が増すと思います。私は机に向かっての勉強に疲れた時などは図書館に行って、新聞の教育に関する記事や教育新聞を読むようにしていました。そして、小論文や集団討論に使えそうな内容をテーマごとにノートにまとめていました。そのほかにも実習先やスクールサポーター先での体験など、自分の中で「このテーマのときはこれを言う!」という引き出しをしっかりと作っておくことで、本番落ち着いて意見を述べるができると思います。

5) 2次試験について

一次試験が終われば、合格発表までドキドキしながらも、二次試験に向けてすぐに対策を始めなければなりません。

2017年 二次試験までのスケジュール(滋賀県小学校の場合)

8月4日：一次試験合格発表

8月21日：水泳実技

8月24日(個人によって日は異なる)：個人面接、特別活動、模擬授業、音楽実技

〈水泳実技〉

水泳実技は、泳法は自由でとにかく50m泳ぎ切るというものです。私は小さい頃に水泳を習っていたのでいけるだろうと思っていたのですが、久しぶりに泳ぐと体力が落ちていてとてもしんどかったです。体を動かすことは気分転換にもなるので、不安な人は早めにプールのある施設や学校のプールで練習しておく余裕を持って本番に臨めると思います。

〈個人面接〉

個人面接は一次試験のときよりも、受験者の考えに対して、より深く掘り下げて聞かれます。私は大学で配布された、過去の面接課題に関する報告書をもとに「面接ノート」を作り、友達と質問を出し合って何度も練習しました。時には、お互いに「怖い面接官」を演じて、圧迫面接への対策も行ったこともあります。実は私は試験当日も圧迫面接に近いもので、「保護者対応」について質問攻めを受けたのですが、「面接官も怖い人を演じているだけなのだ」と思って、最後まで堂々と答えるように努めました。

予想もしなかった質問をされると焦ってしまいますが、今まで頑張ってきた自分を信じて、落ち着いて頑張ってください。

〈特別活動〉

特別活動とは、与えられたテーマについて5, 6人のグループで劇をするというものです。こちらは大学の実践論で対策をして下さるので、それにしっかり取り組めば大丈夫だと思います。「役を演じる」ことも大切ですが、書記などの役割を進んで行うなど協調性もよく見られています。

〈模擬授業〉

自分の選択した教科の授業を10分間行うというものです。教える単元は当日引いたくじ引きで決まります。私は同じ生活科の人たちと分担して指導案を作り、学校の教室を借りて授業を見せ合いました。面接官相手だと緊張してしまいますが、実際に目の前に子どもがいると思って笑顔で乗り切ってください。

〈音楽実技〉

音楽実技はピアノ、歌、リコーダーの三つです。歌は「児童の模範になるように」という指示があるので、大きな声で堂々と歌うことが大切です。音楽実技は学校でも対策して下さりますし、友達と勉強の合間に気分転換に歌ったり、音楽棟で一人ピアノの練習をしたりしていました。

6) さいごに

私も試験勉強をしているときは、落ちたらどうしようとか、本当にこれでできるようになるのかなとか、毎日不安を抱えながら過ごしていました。しかし、「やらなくて後悔するよりも、やって後悔する方がまだ」と思って、何事にも全力で取り組みました。試験勉強中は、ついつい周りと比べて焦ってしまうこともあると思います。しかし、自分を信じて頑張れば必ず結果はついてきます。自分のペースで焦らず頑張ってください。

試験勉強中はしんどいこともたくさんありましたが、そんな時に支えてくれたのが、同じ教師や就職活動に向けて頑張る滋賀大学の仲間たちの存在でした。一緒に練習したり、放課後遅くまで学校に残って勉強したりしている仲間の姿を見ていると、自然と「自分も頑張ろう！」と思えてきます。

最後になりましたが、私のつたない文章を読んでくださりありがとうございました。みなさんが笑顔で合格発表の日を迎えられることを心から願っています。

中学校

2017年度 合格体験記 【教員：滋賀・中学・数学】

T.H さん：学校教育 初等教科専攻・算数専修

1) はじめに

私は滋賀県出身であり、「地元で中学校教師になる」ことを目指して滋賀大学に入学しました。そんな私ですが1回生のとき、専攻決めのテストの結果が悪く、自分の希望に反して初等コースに属することになりました。しかし初等コースでの授業や実習を通して、小学校教師になることにも魅力を感じはじめ、教員採用試験の願書を出すその日まで、ずっとどちらの校種を受けるか悩んでいました。また、大学院の進学も考え、院試の勉強をしたり、教員採用試験の数週間前まで中学校の母校実習にも行ったりと、最後までばたばたとした日が続けていました。

そして、私は本年度から滋賀県の中学校教師として勤めることになりました。今これを読んでいる人の中には、私のように校種や進学、母校実習など試験に対して悩みや不安を抱えている方が多いと思います。私自身の経験がどれほどの力になるかわかりませんが、少しでも皆様にとって参考になる話ができたら大変うれしく思います。

2) 地域・校種の選択について

○どこで採用試験を受けるのか

重複しますが、私は「自分の地元で教師として働きたい」という強い思いがあったため、他府県の採用試験は考えていませんでした。しかしどこを受けるにしろ「なぜその地域で教師になりたいのか」は必ず面接で聞かれる内容です。「地元だから…」だけでなく、もっと具体的にその地域を選んだ理由を自分の言葉で話せることが重要だと私自身強く感じました。

私が滋賀県の教師を選んだ理由は大きく2つです。それは生まれ育った滋賀のまちやひと、風景が大好きであることと、滋賀で出会った先生方や同期のみんなと共に教育に携われることです。

おそらく私の回答は多くの受験者が話す内容であると思います。周りと違うことが言えることも大きなアピールとなるかもしれませんが、しかしあくまで私の主観ですが素直な思いを自分らしく、はっきり伝えたことが自分の結果につながったのかなと思います。

○なぜ中学校なのか

先にも述べた通り、私は小学校と中学校どちらで教師をするかとても悩んでいました。さらに多くの場合、願書を出す時期よりも後に母校実習があります。そのため悩んでいる校種を両方経験してから願書を出すことは難しいです。

いま校種に悩んでいる方には基本実習後に「スクールサポーター」として別の校種に行くことをお勧めします。実習ほど多くことは経験できませんが、実際に子どもと関わりをもつことが校種を決定するうえで大切なことだと思います。

私自身、中学校のスクールサポーターにいくまでは「小学校の教師になろう」と思っていました。が、実際に中学校を訪れて生徒と接する中で、「中学校の教師になりたい」という気持ちが再び強くなり、採用試験で中学校教師を志望することを決めました。

3) 1次試験までのこと

○筆記試験

校種を悩んでいたことと、試験直前に母校実習があること、また院への進学も視野に入れていたため、大学推薦は受けなかつたので、基本実習の後半が終わった頃ぐらいから準備を始めました。

まず取り掛かったのは小学校・中学校ともに必要になる『一般・教職教養』です。ただ一般教養は特に難しく感じなかつたため、苦手科目である社会と理科を「東京アカデミー」の問題集で演習し、教職教養ではLECで暗記を中心に進めました。

新年を迎えるころには、スクールサポーター活動もあり中学校の教師への気持ちが強くなっていたため、東京アカデミーの問題集を使い『専門教科』の演習を始めました。また教職教養は図書館にある「精選問題集」を使い、テーマごとに演習を行いました。4回生の春学期が始まった頃は問題演習を続けながら、過去問に取り掛かりました。5月ごろになると本格的に小論文と面接の練習が中心になるので、筆記勉強の時間が取りにくくなります。そのため、教養試験の準備は4月中にある程度完成させておくべきだと思います。

○小論文

3回生の秋ごろから大学の【教職実践論】という講座で小論文と面接の対策が始まります。基本的には、そこで学んだことをしっかりモノにすれば問題ないと思います。

小論文は「演習量」と「持っている情報量」が多いほど圧倒的有利になります。毎週1つ指定されたお題で小論文を提出するというものですが、1つでなく複数を出せるように心がけてください。また情報量に関しては、教育系に関するキーワード、教師の対応の仕方、など多くのことを自分で調べるとともに友達との情報共有は密に行うことが大切です。

小論文で得た情報はそのまま集団討論にも生きるもので、その点も踏まえて情報収集を行なってください。

○集団面接（集団討論を含む）

一次試験の集団面接で最も重要なことが「準備」です。二次試験の面接は面接官と会話をするようなものですが、一次試験の面接は相手の質問に答えるだけのものになります。そのため、私は大学作成の部外秘資料から一次試験の面接における1分間スピーチと個別質問を全て抽出し、それらの回答を作成、ワードにまとめておきました。

個別質問は過去のをすべて含めると大変な数があるので、友達と協力し、分割しながら回答を作成・共有しました。後はひたすら作成した回答を読み込み、棒読みでなく、自分らしく感情をのせて話せるように練習をしました。「質問に対して一回発言できる」だけの面接であるため、その一回で好印象が与えられるよう、声の大きさや表情などを意識した話し方を心がけてください。

集団討論では基本的に小論文の対策で得た情報が生きます。特に私が集団討論で意識したことは、「教育キーワードの正しい理解と話題の転換」です。

討論を進める上で大切なことは、問われている教育キーワードの意味を正しく理解して、それを

踏まえた提案や考えができています。しかし、実際には間違った意味で理解してしまっている、あるいは、捉える視点がある時に問われているテーマと異なったまま討論が進むことがあります。その際に正しい方向に討論を戻すためには、教育キーワードの正しい意味理解と、それを他の同席者に伝え、正しい概念を共有しながら討論の流れを修正できる提案が必要です。

私たち学生は現場経験のある講師のように「現場を踏まえた具体的な話」を例示することができませんが、討論を円滑に進めるためにできることは多くあると思います。

実際例として、試験において『体験的な学習』に関するテーマが課されたとき、受験者の多くが「体験活動」についての話をしはじめたのですが、私は「『体験的な学習』の意味を再確認し、その上で討論すべきだ」と、討論自体の流れを整えるための発言ができました。

これは人によって様々ですが、討論においては、得意とする「自分の役割」を見つけ、それが本番で発揮できるよう友達と毎日のように集団討論の練習を行ってください。

筆記試験

- ①日時：平成 29 年 7 月 8 日（土）
- ②会場：立命館大学 びわこ・くさつキャンパス
- ③内容：「小論文」、「適性検査」、「専門試験」、「一般教養・教職教養」

面接試験

- ①日時：平成 29 年 7 月 15 日（土）または 7 月 16 日（日）
- ②会場：滋賀県立大津高等学校（高等学校・特別支援学校・養護教員）
滋賀県立東大津高等学校（小学校・中学校・栄養教員）
- ③内容：集団面接（討論を含む）

4) 1次試験について

○面接試験について

1 グループは 8 人で、大学生は私を含めて 2 人だけでした。同じ大学の受験生に確認したところ、どのグループも現在講師をしている人たちのほうが、大学生より多いようでした。

集団面接では必ずと言っていいほど、討論に支障をきたすことをする方が 1 人はおられます。私のグループにも大学生が話した後に必ず突っかかってくる方がおられました。他の受験生の話を聞いていると、ずっと話し続ける、ほかの人の話を中断させる、ほかの考え方を否定する、ほかの受験生を困らせようとする（「この意味わかってますか?」、「具体的にどうするんですか」など）といった事例はかなり多いです。おそらくみなさんも本番の集団面接でこのような事態に直面することは少なくないでしょう。練習時の段階からこのようなことも起こりうるという想定をしておいてください。

5) 二次試験までのこと

ここからは主に「滋賀県中学校・数学科」における話になりますが、共通点も多くあると思いま

すので、参考にしていただけると幸いです。二次試験の対策は一次試験の合否にかかわらず、一次試験が終わると同時にスタートを切ります。

○模擬授業

大学の部外秘資料には、模擬授業のテーマもまとめられています。私は一次試験に合格したメンバー数人ですべてのテーマを分割し、授業を作成しました。このように仲間と協力することで効率よくすべての授業を準備することができます。

さらに、作成した授業案をただ書面として共有するのではなく、実際にみんなの前でおこない、動画で撮影をしました。実際に行うことは本番のためのいい練習になりますし、その後みんなで考察をすることで授業の質も高めることができます。ちなみに私は分担しているところだけでなく、すべての授業を自分一人でも作成しました。他の人の授業と自分の授業を比較することは、より良い指導や教材を発見することにつながりましたし、時間を要することではありますが、どの授業を行うことになっても対応できるように準備しておくことは重要だと思います。

最後に多くの学生が悩む「机間支援」についてです。指導してくださる先生によって意見が分かれることがあります。私が受験したときは、面接官から「机間支援はしないでください」と注意がありました。模擬授業では「机間支援をしたもの」として授業を進めればよいと思います。

○個人面接

一次試験合格の通知とともに『面接カード』が送られてきます。個人面接ではその『面接カード』をもとに面接官が質問をされます。前述したように、個人面接では面接官と対話をしながら進めていくようなものになるので、自分の話したことについて具体的に聞かれたり、質問をされたりすることもあります。

『面接カード』の項目は以下の通りです。(あくまで私の記憶に基づいたものなので、不正確な部分もあるかもしれません)

- ① 滋賀の教師を目指す理由
- ② 今までに子どもとのかかわりの中で学んだこと
- ③ 実習先と期間
- ④ ボランティア活動の有無
- ⑤ 自己PR

提出する際には、しっかりと内容を吟味する必要があります。滋賀大学には元々教員をされていた先生方が多くおられます。添削指導をいただきながら書き進め、考えられる質問とその回答を想定しておくことが重要です。私自身は模擬授業でいっぱいだっただったので、個人面接の準備は正直なところほとんどできていませんでした。二次試験では双方をバランスよく計画的に進めていくことが大切だと身をもって感じました。

- ① 日程：平成 29 年 8 月 19 日
- ② 場所：栗東市立大宝東小学校
- ③ 内容：個人面接、模擬授業

6) 二次試験について（※中学校数学科の場合）

○当日の流れ

午前のみ、午前から午後、午後のみ3部に分けて実施されます。さらに1つの部の中で2つに分けられ、個人面接→模擬授業のグループと模擬授業→個人面接のグループに分けられます。また午前から午後の部のみお昼を挟むので昼食を持参する必要があります。

○模擬授業

模擬授業は3つの教室を使い、3人ずつ行われます。まず模擬授業を行う教室と異なる場所で席に着き、くじを引きます。くじは一回のみの引きなおしが可能です。くじを確認後8分間で、くじに記されたテーマの授業を構想します。用紙を配布されるので、それをメモとして使います。

構想時間が終わると教室を移動し、面接官へのあいさつ、受験番号・テーマを発表し模擬授業を行います。前述したように模擬授業での机間支援は必要ありません。

○個人面接

正直、このことについてお話しすることが一番難しいです。それは、面接の内容が面接官により大きく異なるからです。「圧迫面接」に関することが近年噂になってはいますが、私が体験した面接はとても優しい雰囲気のものでした。しかし圧迫面接を経験された先輩の話を伺うと、専門知識を問う、「それで教員を目指しているのですか」と言われるなど、本当に大変だったそうです。

また、面接カードの内容を踏まえた質問があると聞いていましたが、私の場合は面接カードから聞かれることはほとんどありませんでした。会話のようなやり取りが続き、「例えばどのようなことですか」、「具体的には」、「他には」といった質問を多く受けたことを覚えています。

集団面接と異なり、何をどれくらい準備しておけばいいか予測がつきにくいのが個人面接です。大変ではありますが、備えあれば患いなしです。準備を怠る理由にはならないので、できるだけ準備を行うことをお勧めします。

7) 最後に

つたない文章であったと思いますが、最後まで目を通していただきありがとうございました。皆さんのお役に少しでも立てればと思い、この度、執筆させていただく運びとなりました。

私自身の経験を思い返すと、教員採用試験の突破のために一番重要だったことは「情報収集」であったと感じます。この大学では多くの先輩が教員採用試験を突破し、先生としての道を切り開いておられます。是非卒業された先輩方に多くのことを聞いてみてください。必ず皆さんのお力になってくださると思います。

また、一緒に合格を目指す友達との情報交換も重要です。受験は団体戦といいますが、先輩や先生方、友達と多くのことを共有しながら合格をつかみ取ってください。近い将来皆さんと共に教育に携われる日を楽しみにしています。

2017年度 合格体験記 【教員：滋賀／兵庫・中学・理科】

Y.S.さん：学校教育 理科専攻

○ はじめに

今年度、滋賀県と兵庫県の教員採用試験を受験し、採用の内定をいただきました。今回の教員採用試験での私の経験が、みなさんの役に立てばと思います。

○ 併願について

今回の教員採用試験では滋賀県と兵庫県の併願しました。併願した経緯としては、私自身は兵庫県出身なのですが、滋賀県も選択肢にあり、悩んでいました。滋賀県の大学推薦をいただけたら滋賀県、もし駄目だった場合は併願しようと考えていました。結果として、大学推薦はいただけなかったため、併願することに決めました。

以下、併願のメリット、デメリットについてです。

【メリット】

- ・慣れが生まれる
- ・駄目だったところを修正できる

併願していると、「試験の雰囲気」それ自体に慣れることができます。大学では友達と集まって集団討論の練習をしましたが、見知った顔なので、やはり本番とは雰囲気が異なります。「本番での雰囲気」に慣れることができるというのは、大きなメリットだと思います。

また、本番の面接や筆記試験でのミスを次の機会に修正できるのもメリットです。できなかった問題やうまくいかなかった面接の回答は必ずあると思います。併願していると最初の実験を次の試験に生かすことができ、少し落ち着いて試験を受けることができると思います。

【デメリット】

- ・7月・8月のスケジュールが、かなりハード
- ・自治体ごとに対策が異なるので対策の手間がかかる

まず、試験の回数が多いです。専願の人は、基本的に一次試験は2日間です。しかし、併願すると計4日間にもなり、7月中は毎週土日のどちらかに試験を受けることとなります。また筆記試験、面接試験が交互に来たりするので、どちらか一方に集中して対策することは難しいです。

二次試験に入ってから日程はとてもハードです。8月の半ばから後半にかけて二次試験がありますが、兵庫県の面接試験を受けた次の日に滋賀県の面接試験という風に連続して受けることがあります。

また、自治体によって受験対策が異なります。例えば、滋賀県の一次試験では小論文がありますが、兵庫県ではありません。滋賀県の集団面接では個人の意見発表がありますが、兵庫県では集団討論のみです。また、筆記試験では自治体ごとの教育施策や条例の問題が出題されますが、うまく整理できてい

ないと知識が混ざります。

併願にはメリット・デメリットがありますが、自身の未来に関わる事なのでしっかりと考えて選んでください。

○ 一次試験

【滋賀県】2017年

筆記・・・7月8日 @立命館大
集団面接・・・7月16日 @東大津高校

【兵庫県】2017年

筆記・・・7月23日 @関西学院大学
集団面接・・・7月1日 @兵庫県立大学

・筆記試験対策

滋賀県では、「教職教養」に関する問題の比率が高いのでひたすら暗記をしました。暗記の方法は人それぞれなので割愛します。「一般教養」は、過去問を確認して、中学校の範囲で分からないところ、忘れていたところを重点的にしました。「小論文」は大学入試に向けて練習していたことがあるので、「教職実践論」の課題をこなす程度でした。

「小論文」に関しては、とにかく「慣れ」です。書いたことのない人はとにかくたくさん書くのがいいと思います。「専門教科」についてはまず過去問を見て、どのレベルの問題が出るかを確認するのがいいと思います。そのレベルに応じた勉強を進めていくことが重要だと思います。

兵庫県は、「教職教養」の比率はそこまで高くなく、むしろ「一般教養」の比率が高いです。しかし滋賀県のための準備対策とすることがあまり変わらないため、特別に対策はしていませんでした。両県を比較し、少し違う点として、兵庫県には「情報技術関連」の問題や、「美術」、「音楽」などの問題が出題される傾向があるので、その点に対策を行いました。

筆記試験対策は、始めるのは早ければ早いほどいいです。始めるのが「遅すぎる」ことはあっても早すぎることはありません。

・集団面接

滋賀県では「集団討論」と「集団面接」があります。「集団討論」では、その場で指定されたテーマに関して数人で討論を進めていきます。集団面接では、質問されたことに対し、それぞれの受験者が順番に意見を発言していきます。

私自身は、集団討論はとても苦手なので、ここでは、同じように苦手に思っている方が参考になるようなことを書きます。苦手に思っている方は、とにかく「無難」に徹することがいいと思います。自身の意見をしっかり言うことは当然ですが、他の受験者と差を付けようと必死になる必要はないと思います。とにかく「墓穴を掘らない」ことを意識すれば大丈夫だと思います。

兵庫県では集団討論のみです。滋賀県とは異なり、事前にネットでテーマが3つ示され、そのうちの1つについて話し合います。そのため受験者それぞれが自分で準備をしてきており、討論はとても活発になるので、しっかり手を挙げ、その場に参加することが求められます。年度によってテーマの出され方が異なるので、自治体の教採用ホームページをしっかりとチェックしてください。

○ 二次試験

【滋賀県】2017年

面接・・・・・・8月18日 @大宝東小学校

水泳・・・・・・8月21日 @大宝東小学校

【兵庫県】2017年

面接・・・・・・8月17日 @尼崎北高校

実技・・・・・・8月25日 @兵庫工業高校

滋賀県では、「模擬授業」と「個人面接」があります。

「模擬授業」では、まず「お題」の紙が配られ、10分間で授業の構成を考えます。「お題」は一度だけ紙を引き直すことができます。そして模擬授業を行います。この対策としては、滋賀県と同じ教科を受験する人同士で集まり、過去問から指導案づくり、実際に模擬授業を行っていました。

「個人面接」では、「準備しすぎない」ことが重要であると思います。原稿を用意することはせず、どんなことを聞かれてもある程度答えられるよう、「キーワード」を整理して考えておくことで、個人面接は大丈夫だと思います。

兵庫県では、「模擬授業」と「個人面接」、「実技試験」があります。

模擬授業では教科書の1ページを配られ、5分で構成を考えて授業をします。対策として特に滋賀県と変わりませんが、面接では5月に出した願書の記述内容をもとに、様々なことを聞かれるので準備が必要です。実技試験では、中学校の理科の実験を行います。基本的な器具の使い方をしっかりと復習しておけば、問題はないと思います。

○ 教職実践論に関して

滋賀県の採用試験を受ける方は、必ず行った方がいいと思います。滋賀県教採対策としては、かなり有効なところが多かったです。「面接」、「小論文」などは滋賀県に特化した対策をすることができます。ただ、「自分には必要ない」と感じたら、違う対策に時間を割いてもいいと思います。

他の自治体を受ける方は、自分にとって必要と考えれば行くのがいいと思います。ただ、必要のないことに時間をとられることもあり得ます。例えば、教職実践論では小論文の添削がありますが、兵庫県の試験には小論文はないので、対策としては不要です。そのため、しっかりと自分で考えて参加するかを決めてください。

○ 最後に

拙い文章ですが、最後まで読んでいただきありがとうございました。少しでも皆さんの役に立てば幸いです。

高等学校

2017年度 合格体験記 【教員：滋賀・高校・国語】

M.K.さん：学校教育 国語専攻

【はじめに】

わたしは今年度、滋賀県教員採用試験・高等学校・国語を受験し、合格をいただくことが出来ました。わたしは大学1回生の頃から「高等学校の教員」を目指していました。周りに小学校や中学校の教員を目指す人達が多いことや、高等学校は倍率が高いと言われていることから、受験を少し迷う時期もありました。しかし、4回生の春から真剣に勉強し、対策を立てていれば、必ずその成果は結果として現れます。

この体験談をとおして、わたし自身の経験から採用試験の感想や、勉強方法をお伝えできればと思っています。高等学校教師を目指してはいるものの、受験を迷っている人も多いと思いますが、そういった人達の参考になれば幸いです。

【院試との両立について】

わたしは滋賀大学の院に進学する予定だったため、9月にある院試も意識して過ごしていました。平行して2つの勉強を行うのは大変だと思われる方もいらっしゃると思います。しかし、滋賀大学の院に進学するつもりであれば、院入試の機会は複数回あります。そのため、まずは教員採用試験に全力で取り組んだ方がいいと思います。また、大学教員の先生方からたくさん有益なお話が聞けるので、まずは先生方に相談してみることをおすすめします。

【一次試験】

*筆記試験

▼一般教養・教職教養

・共通

①滋賀県の教職・一般教養 過去問（東京アカデミー）

・一般教養

①一般教養ランナー（東京教友会）

②教員採用試験対策参考書（東京アカデミー）

③試験に出る重要教育答申（時事通信社）

④滋賀県教育委員会 学校教育の指針

・教職教養

①教職教養ランナー（東京教友会）

②教員採用試験対策参考書（東京アカデミー）

両方共通して、私は「過去問を解く」ことから始めました。過去問を解くことで自分が受けようとしている試験に関して、大体の問題の傾向がわかります。たくさんでなくてもいいので、まずは過去問を解くことをおすすめします。

まず、テキスト、参考書の使いかたについて説明します。教職教養では、①『一般教養ランナー』に答えを書き込むところから始めました。①は文章の中から重要な単語が抜いてある形の問題集なので、抜いてある単語を繰り返し覚えめました。②『教員採用試験対策参考書』は内容が詳しく書いてあり、内容理解には役立ちますが、少し細かい所もあるので補足的に活用するのがいいと思います。③『試験に出る重要教育答申』は教育答申に特化しているので、過去問を解いてから、重要な所を部分的に覚えるようにしました。④『滋賀県教育委員会 学校教育の指針』は滋賀県では頻出なので、必ず覚えるようにしました。試験に出やすそうな部分を判断して、そこを重点的に見るのをおすすめします。

一般教養は、わたしは国語と英語に関しては勉強しませんでした。特に高等学校は教養科目の配点が低いので、自分が苦手な部分を重点的に勉強することをおすすめします。こちらも①で問題を解き、詳しく知りたい部分やわからない所があれば、②で詳しく勉強するという形で進めていきました。

文系の人であれば、科学や物理には非常に苦勞すると思います。あまりにも勉強に時間のかかる科目は飛ばしてしまう勇気も必要だと思います。私は物理に関しては、ある程度飛ばしました。

▼専門試験

- ①教員採用試験対策 中学・高校 国語（東京アカデミー）
- ②滋賀県の国語科 過去問（東京アカデミー）
- ③滋賀県の国語科 参考書（東京アカデミー）
- ④高校の参考書（古典・漢文の文法書）

専門教科は、高校という校種を受験する上でかなり配点が高いので、なるべく早めから勉強しておくのがおすすめです。試験の難易度は、わたしの感覚では「大学受験の二次試験よりやや高め」といった感じでした。勉強方法としては、教養と同じく②の過去問を先に解いて問題の雰囲気をつかんだあと、①や③で問題演習を行いました。古典や漢文の文法知識がかなりしっかりしていないと解くことが出来ないで、④を使ってかなり細かいところまで覚えるようにしました。

専門に関する問題は正直かなり難しいです。わたしも本番は6割程度しか取れませんでした。評価は5段階中の5をいただきました。受験生みんなが難しいと思っているので、諦めずにコツコツ頑張ってみましょう！

*小論文

小論文は、教職実践論の先生に添削していただけます。添削していただいたものは、必ず書き直すようにしていました。小論文は何度も書くことが大切だと思います。初めは何を書けばいいかわからないと思いますが、回数を重ねるうちに段々と「なにを書いたらいいのかわかるようになるからです。

わたしはどのようなテーマであっても、そのテーマの「原因や背景」と、「自分が実践したいこと」を必ず内容に取り入れて書くようにしていました。小論文用の参考書なども売っていると思いますので、それらを読んである程度の基礎知識を学んでおくのもおすすめです。「自分のしたいこと」については普段から考えておくと、かなりスムーズに小論文を書くことができるようになると思います。

***集団討論**

▼自己PR

自己PRの原稿は早めに作っておき、専攻や実践論の先生に添削していただくのがいいと思います。わたしは実践論の先生に添削していただきました。話の中に「自分がしてきた具体的なこと」を盛り込むと、他の人と違いが出ていいと思います。

自己PRは必ず1分以内に収めなければならないため、本番かなり緊張します。そのため、わたしは何度も何度も繰り返し練習しました。運転中やお風呂の時など、暇な時間があれば呟くようにして、体に覚えさせる勢いでやるのがいいと思います。忘れる心配がなくなると自分に余裕がでて、話すときに抑揚や、効果的な間なども入れられるようになっていきます。

▼集団討論・面接

集団討論や面接は、実践論で先生が作成してくださった資料や滋賀大で配られる部外秘資料を活用しました。討論は所要時間15分で、面接は二つずつ、全員同じ内容の質問をされました。

練習の初めのうちは何を言えばいいかわからず、かなり苦戦しました。しかし、聞かれる質問の内容はある程度決まっています。そのためわたしは専用のノートを作り、特に面接についてはそれぞれの問題について自分が何を言いたいのかをまとめ、短時間で言えるように練習しました。面接でこういった練習を重ねたことで、次第に討論でもテーマについて自分が言わなければならないことがわかってくるようになりました。

討論に関しては、実践論のグループや部活のグループなど、たくさんの人と練習することをおすすめします。色々な立場からの意見を聞くことができ勉強になるだけでなく、違う校種の方の討論の姿勢なども知ることができ、非常に参考になります。

高校の採用試験には、受験者の中にすでに講師として教壇に立っている方が多くいらっしゃいます。話す内容はやはり講師の方々が具体的で深いです。わたしたちは大学生らしく、若々しく熱意を持った態度でいきましょう！

【 二次試験 】

***個人面接**

二次試験での個人面接も、一次試験の集団討論と同様に大学の部外秘資料を活用しました。部外秘資料を見てみると、質問の内容やテーマが、毎年ある程度被っていることがわかります。そこを中心に、仲間と繰り返し練習を行いました。

本番、わたしは「志望動機」「院に進学する理由」「保護者対応」などの質問を10個程度されました。時間は15分程度だと思います。練習していく中で、「自分がどんな教員になりたいか」、「教員となる上で自分が大事にしたいこと」、「そのためにどんなことをしていく必要があるか」などの考えがまとまってくると思います。その考えを軸に他の質問の答えの内容も考えていくと、全体として一貫した答えを返すことが出来ると思います。堂々と胸をはって、ゆっくりと落ち着いて話せば熱意は面接官に伝わると思います。

*模擬授業

模擬授業は初めにテーマの紙を渡され、そこから8分で構想を行い、8分で模擬授業を行いました。高校の採用試験では、授業後に二つほど質問をされました。

わたしは一次試験の後から、二次試験の対策を始めました。そのためあまり時間はありませんでしたが、本当に模擬授業の対策は大変なので、気を抜かずに、すぐにでも対策を始めることを強くおすすめします。

「国語」に関しては、例年ずっと「俳句・短歌」の課題がでていたので、ほとんどの高校の国語の教科書から俳句と短歌を抜き出し、5回以上扱われているものについての授業案を作りました。全部で80弱になったと思います。それを同じ受験生の方と練習しあいました。これも一人ではなく、人に見てもらうことで緊張感が生まれ、相手からアドバイスももらえます。仲間と協力しあってやることをおすすめします。

今まで述べたように、自分としてはかなり対策をして本番に挑んだのですが、実際、本番では古文の『竹取物語』がでて、すごく動揺しました。本番は何が起こるかわかりません。なんとか授業の構想を練り、模擬授業に挑みました。

試験を通したわたしの感想としては、模擬授業では「授業をする態度と、どれだけ生徒に考えさせる発問を行っているか」が重要視されていると思います。提示された課題や題材について十分に知らなくても、落ち着いた態度で臨めば結構なんとかなります。また、授業構成を考えるときは「どういった発問をすれば、生徒に深く考えさせることができるか？」を常に考えて構想を練っていました。練習の段階で何度か、「構想していない範囲」を授業してみるのも一つの手だと思います。有名な古典作品については、今から内容だけでも軽くおさらいしておくとも役立つかもしれません。

とにかく明るく落ち着いた態度で頑張りましょう！

【おわりに】

最後まで読んでいただき、本当にありがとうございました。

高校の試験は受験仲間も少なく、倍率も高いので、受けようかやめようか悩んでいる人は大勢いらっしゃると思います。迷ったときは、もう一度「自分が本当にやりたいこと」を思い返してください。そうすれば、あとは全力でやりきるのみだと思います。

わたしは試験期間を通して、「実際に行動すること」の重要性を学びました。面接や討論で自分の意見を言うのも初めはとても恥ずかしかったですし、勉強することも、とても辛かったです。やった分は確実に自分の自信と励みになっていきます！何事も行動あるのみです。なんとか、一步を踏み出しましょう！

試験期間は非常に長いので、本当に辛く感じる時もあると思います。そんな時は無理せずに、仲間や友達と息抜きしてください。高校は受験仲間が少ない分、とてもお互いに仲良くなることができると思います。勉強のスケジュールやプライベートの過ごし方にメリハリをつけて、体調にだけは気をつけて試験に挑んで欲しいと思います。

この体験記が少しでもみなさんの助けになれば幸いです。影ながらではありますが、心から応援しています！

幼稚園・保育園

2017年度 合格体験記 【幼保：滋賀県（甲賀市）・幼保】

M.Y.さん：学校教育 幼児教育専攻

【はじめに】

私は甲賀市と守山市の二つの自治体の採用試験を受けました。実習での経験や通勤時間・試験日程・試験内容などを考慮に入れて、最終的にこの二つの自治体の採用試験を受けることに決めました。

幼稚園教諭・保育士は市町村単位で採用試験を実施しているので、試験日程が重なっていなければ複数の自治体を併願することが可能です。ただし、年度によっては採用試験を実施していない自治体もありますので、採用試験を受けようと考えている自治体のホームページをこまめにみて情報収集しておくことをお勧めします。

私の場合、第一志望としていた甲賀市から先に内定をいただき、守山市は途中辞退をしましたので、甲賀市の採用試験の内容や対策を中心にをご紹介します。

【試験の流れと内容】

○ 一次試験

日時：6月25日（日）

内容：教養試験：40問、120分

マーク式で、センター試験のようなイメージ。

数的処理や時事問題の割合が大きい。

専門試験：30問、90分

マーク式で、幼稚園・保育士の両方の内容を問われる。

時間は余裕あり。

○ 二次試験（実技試験）

日時：8月5日（土）、8月6日（日）のいずれか1日。

内容：集団実技（5人1組）

- ・わらべ歌遊びの模擬保育
- ・絵本の読み聞かせ
- ・保護者へのお知らせのポスター作り

全部合わせて90分程度で、試験管は3人。

○ 二次試験（口述試験）

日時：8月8日（火）、8月9日（水）のいずれか1日。

内容：個人面接

20分程度で、面接官4人・進行役1人。

事前に面接カードを提出していて、そのカードに書いた内容を参考に質問をされる。

- ・ 幼児教育職を目指したきっかけは何か。
- ・ なぜ甲賀市で公立の幼児教育職なのか。
- ・ 小学校教諭の免許を持っているが、小学校の試験は受けたのか。
- ・ 理不尽な要求をする保護者にどう対応するか。 など

【試験対策について】

○ 筆記試験

参考書を何回も繰り返し、解くようにしました。特に、数的処理は時間配分が難しいのでストップウォッチを使って時間を計り、確実に短い時間で解けるように練習しました。

教養試験・専門試験のどちらも、一つの参考書を答えを覚えてしまうぐらい繰り返し解いてしまったら、他の参考書にも一度目を通すようにすると良いと思います。同じような問題であっても「問われ方」が変わるだけで分からなくなってしまうこともあるので、様々な問題に触れておくことが大切だと思います。

参考書・教科書として私はALCの就職資料室や図書館にある本を活用していました。教養試験では時事問題に関することがよく問われたので、普段から新聞に目を通したりニュースを見たりして、社会の動きに関心を向けておく方が良いと思います。

○ 実技試験

実技試験は自治体によって内容が大きく変わります。自分が受けようと考えている自治体が、大学の実践論で配布していただける「教員採用試験受験者報告書」に載っていれば、それを参考にして試験対策をすると良いと思います。

甲賀市は過去に採用試験を受けた先輩がいなかったことから、大学には資料がなく、自分で知り合いに聞くなどして情報を集めるようにしました。また、他の自治体の試験を受ける人からどのような対策をしているかを聞いたり積極的に情報を集めました。その友人たちと時には一緒にダンスの練習をしたりして励まし合いました。

また、実技試験対策をする上で、「自分の引き出し」をたくさん作っておくことが大切だと思います。試験内容が直前にしかわからないことも多いので、普段から保育雑誌を読んで制作のアイデアを集めておいたり、音楽に合わせてダンスを考えたりしておくことが有効だと思います。そして、これらは実際に保育現場で働くことになった後でも役に立つことだと思います。

○ 面接試験

面接試験は主に集団面接と個人面接があります。甲賀市は個人面接だけでしたが、守山市は集団面接がありましたので、集団面接の練習もしました。

面接の練習をする上で苦労したのは、一つの質問に対して一分以内に簡潔に答えるということです。そのために、まずは実践論で教えていただいた、「面接で問われやすい質問」に対しての自分の考えをノートに書き出して、自分の気持ちを整理していきました。そして、次はその整理した文章を一分以内にまとめられるように、友達と順番にストップウォッチで計って話す練習をしました。幼稚園・保育所の試験を受ける人が全員集まれない時でも、声をかけあってその時に集まれる人だけで、何回も練習しました。

面接対策のために自分の気持ちをノートに書き出して整理することで、自分が理想とする保育や保育士になりたい気持ちを改めて実感し、試験へのモチベーションを上げることができました。

【さいごに】

私が採用試験を受ける上で、特に役立ったことは、実習やボランティアでの経験です。

筆記試験の勉強とは違い、実習やボランティアで経験を積むことは短時間で集中するだけではできないことだと思います。だから、時間がある1~3回生の間に自分から積極的に子どもたちとふれあう機会を作るようにすることをお勧めします。

私は4回生になってからも1週間に一度、地元の保育所にボランティアに行っていました。試験のプレッシャーに押しつぶされそうな時でも、元気に遊ぶ子どもたちやそこで働いている保育士さんの姿を見ることで、何回も励まされました。また、実際に面接で問われたことに関しても、実習やボランティアで経験を積んできたからこそ自信を持って答えることができました。

私は二つの自治体の試験を受けていました。甲賀市の二次試験対策をしながら守山市の一次試験の勉強もするというように、うまく両立させることが大変でした。限りある時間をどのように使うかが大切だと思います。

また、滋賀大学の中では、幼稚園・保育所の試験を受ける人は小学校や中学校の試験を受ける人よりも人数が少ないです。だからこそ幼稚園・保育所の試験を受ける仲間同士のつながりが大切であると実感しました。

幼稚園・保育所の試験は自治体によっては長期に及ぶこともあり、心が折れそうになるかもしれません。時々息抜きもしながら、子どもたちに囲まれて働いている将来の自分をイメージして、仲間と一緒に頑張ってください。皆さんのことを心から応援しています。

特別支援学校

2017年度 合格体験記 【特別支援学校：神戸】

Y.H.さん：学校教育 障害児教育専攻

1) はじめに

この度は「就職体験記」への執筆の機会をいただき、ありがとうございます。多くの人に支えられて、神戸市の特別支援に合格できたと思っています。今回は、教員採用試験まで自分がやってきたことを述べたいと思います。拙い文章ですが、皆さんの教員採用試験対策や就職活動の役に立てば幸いです。

2) 地域・校種・職種などの選択について

先ほども述べたように、私は「神戸市の特別支援」一本で教員採用試験を受けました。出身は淡路島であり、神戸とは縁もゆかりもありません。

神戸を受験しようと思った理由は数点あります。1つ目は、「神戸の教育理念が好きだから」。教育理念にはそれぞれの自治体の特色が出ます。皆さんも希望する自治体の教育理念を調べてみてください。絶対面接のときに役に立ちます。

2つ目は、「倍率」です。教員採用試験を受けると決意してから、兵庫県・神戸市・滋賀県の3つの特別支援の倍率を調べました。神戸市が一番低かったので、神戸にしようと思いました。

3つ目は、「地元との近さ」です。兵庫県を受験すると、範囲が広くてどこに勤務するかの予想も立てづらいです。神戸市に限定すると、比較的どこも勤務地が近いので、神戸にしようと思いました。

滋賀大に通いながらも地元が滋賀ではない人の悩みの多くは、「どの地域を受験するか。」だと思います。私自身、滋賀・兵庫・神戸の選択で悩みました。滋賀だと、大学時代の仲間が多くいるため、何かあった時心強いと思います。兵庫だと地元で就職できた際、土地勘も縁故もありとても強いと思います。このような点から、多地域との併願も考えました。しかし、私自身、一度に多くのことをするのが苦手で、「二兎追う者は一兎も得ず」だと思い、神戸の単願に絞りました。また、それぞれ3つの自治体の問題の傾向が違いすぎたのも一つの決め手です。

3) 試験までのこと

大学は推薦での入学だったため、筆記試験にとっても自信が持てなかった私は、参考書を3回生の夏頃に買い、教採に向けての意識付けをしてきました。この時期は「たまに参考書を読む」という程度でしたが、「勉強する」ことに慣れることから始めました。本格的に勉強を始めたのは、4月からです。しかも、最初の勉強方法が自分に合っていないことに気付き、5月から勉強方法を変えました。

滋賀大で不利な点が有るとすれば、「神戸市の情報が少ない！！」ことです。兵庫教育大学の友達に情報をもったり、一緒に神戸市を受ける仲間が神戸市でスクールサポーターをしていたので、多くの情報を教えてもらったりもしました。後は、神戸市の教採説明会に積極的にいきました。また、試験の日

程なども滋賀県内の教採とは全然違うため、自分で計画を立て、マイペースで頑張ることが必要になります。

また、京都教育大学で開講されている、滋賀大で言えば「教職実践論」のような授業にも潜入して、神戸市を受ける予定の人と討論したこともありました。これも神戸と一緒に受ける「友達の友達」が京教にいたからできた技でした。

4) 1次試験本番

■具体的な試験内容、スケジュール、その対策

○7/1 筆記試験

筆記試験は、とりあえず各地の過去問を解いてみて、自分に合った対策を考えました。この事から、自治体によってどんな問題が出るか、どんな対策をすればいいか、自分の弱点はどこかなどを明確に知ることができました。

問題集は、自分に合ったものを探すことが重要だと思います。

○7/24 集団面接

部活の友達、同専攻の友達、一緒に神戸を受ける仲間…ect. 特に、同専攻の友達とはほぼ毎日と言っている程、面接の練習をしました。滋賀県の教採が神戸よりも一週間早く終わったので、最後の追い込みは、神戸を受ける仲間たちみんなで毎日練習しました。

参考書としては、自治体別の面接・小論文の過去問や、『教職課程』（協同出版）という毎月発刊されている教員志望者のための情報・教養誌本を、興味のある月だけ買っていました。

時事ネタを聞かれる可能性もあったので、新聞を読むのが苦手な私は、NHKの夜のニュースを毎日録画したり、Twitterで新聞のアカウント(神戸新聞や教育新聞)をフォローしたりしていました。

5) 2次試験までのこと

1次の合格発表から2次試験まではあまり時間がなかったため、そこから対策を始めているのでは間に合いません。1次試験が終わったらすぐに2次試験に頭を切り替えて、勉強を始めました。1次に合格しているか不安で勉強が手につかないときもありましたが、小論文や面接の受け答え、時事ネタの情報集めなどをしていました。

また、2次試験では体育実技もあり、体育が苦手な私は、学校での実技対策や友達と一緒に市民体育館を借りたり、プールへ行ったりしていました。

6) 2次試験本番

○8/18 小論文・実技試験

小論文は、学内の「教育実践論」授業で対策しました。滋賀県と他の自治体では字数などが違うため、先生にお願いして課題の字数を変更していただき、書いていました。また、過去問題集を買っていたので、過去5年分は2回ずつ繰り返して時間を計りながら取り組みました。

実技試験は、5)でも書いたように、学校のプールを借りたり、市民プールへ行ったり、学校の体育館

を借りたり、友達と市民体育館に行き、その職員さんに無理を言って実技のコツを教えてもらったり… 周りの人に助けられながら、本番を迎えることができました。

〇8/22 個人面接

個人面接は、1次の合格がわかってから神戸受験組で練習を始めました。場面指導や模擬授業も含まれる面接でした。場面指導は相手がいた方がシミュレーションしやすく、対策として効率が良かったため、神戸受験組で練習することが多かったです。ほかの人のやっていることを見て、「真似しよう」と思う点がたくさんあり、それを自分のものにしていきました。それは面接でも同様です。

面接は、「これを聞かれたら、こう言う。」というのをノートに書いて、覚えました。ほかの人の答えを聞いて、「こういう答え方もあるな」と思いながら、自分の考え方を変えたりしていきました。

模擬授業は、夜に新棟へ行って一人で練習していました。神戸市では、指導案を先に提出しての授業となるので、同じ授業の「ココ」と決めた部分を繰り返し練習し、緊張しても安定した授業ができるようになるまで練習しました。また、神戸市が使っている教科書を調べて指導案を作ると、より良いかもしれません。

7) さいごに

最後まで読んでいただき、ありがとうございます。

私は、周囲の人に支えられて、教員採用試験に挑むことができました。一人で挑んでいたら、絶対に合格することはできなかったと思います。専攻の友達、部活の友達、神戸受験組の友達のほかにも、大学の先生方、教務係の方々、バイト先の皆さんにも支えられ教採を受けることができました。教採を受ける仲間同士、お互いに支え合うことが大切です。

滋賀県以外の自治体を受けるからと言って、滋賀県のやり方で集団討論などの練習をしてはいけません。滋賀県のやり方で練習しても力はつきます。機会があれば、自分が受ける自治体以外の討論や面接練習を一緒にしてみてください。また新しい視点を見出すことができるはずです。

今後も感謝の気持ちを忘れず、頑張っていきたいと思います。皆さんも、自分なりの勉強スタイルを見つけて合格をつかみ取ってください！

～ 参考書類 ～

*一般教養・教職教養

- ・神戸市の教職・一般教養 過去問 協同出版
- ・どこでも！一般教養試験 教員採用試験対策研究会/編著(教職教養版も使用)
- ・教員採用試験 Twin Books 完成シリーズ 一般教養の演習問題 時事通信出版局/編(教職教養版も)

*専門科目

- ・どこでも！特別試験教員試験 教員共学の会/編著
- ・どこでも！特別支援学校学習指導要領 教員採用試験対策研究会/編著
- ・オープンセサミシリーズ 教員採用試験対策 ステップアップ問題集 12 特別支援教育
東京アカデミー/編

***その他**

- ・教員採用試験αシリーズ 模擬授業・場面指導 野口芳宏/著 一ツ橋書店
- ・リアルから迫る 教員採用小論文・面接 吉岡友二/著 実務教育出版
- ・教職課程 協同出版(気になる月のみ買っていた情報・教養誌)

『教員採用試験 特別支援学校らくらくマスター』(実務教育出版)がいいという大学の先生が多いとの情報を聞いたことがあります。しかし、大切なのは「自分がやる気になる」、「見やすい参考書」です。図書館にもたくさんあるので、一度全種類目を通してみるのも面白いかもしれません。ぜひ、自分に合った一冊を見つけてみてください。